地域のニーズに応えて・・

館邑会理事長挨拶

昭和56年に通所授産施設「陽光園」から始まった館邑会は地域のニーズに寄添いながら事業の拡張をしてきました。当時この地域には養護学校を卒業した後行く所が無く、多くは家庭に戻り他の人達との関わりが少なくなってしまったと思われます。学校では集団で社会性等を学んできました。家庭に戻ってしまっては、社会的自立から後退してしまいます。学校で学んだことを生かし、更に社会的自立に向けた作業所が必要と地域のニーズに応えるべく、館邑会が設立され、「陽光園」が作られました。後に入所施設のニーズで「第二陽光園」、小規模入所のニーズで「てんしゃば」を開所してきました。

地域のニーズは、その地域の置かれた状況と法令等の影響を受けます。

平成15年に支援費制度が導入され平成18年には「障害者自立支援法」が施行されました。この法律で利用者は「生活支援」「就労支援」を選択できるようになった為「就労支援」を目的とした事業所「ふらっぐ」その後「ＧＯＯＤＪＯＢ」を開所いたしました。また、この地域で不足していた、放課後等デイサービス「ういず」の開所と、１市５町の委託を受けて、地域の相談支援センター「ほっと」の運営が始まりました。この地域で必要とされる法人にますます成長し続けたいと思います。

理事長　山川　博

コロナから脱出しよう！！

陽光園

なかなか収まらない新型コロナウィルス感染症。日々共有スペースの消毒・定時検温を徹底し、食堂にはアクリル板を設置して感染症対策に努めています。

陽光園は３つのグループに分かれて日中の活動をしています。作業活動として、枕カバーを伸ばす作業を中心に、ミルクポーションのプラスチック容器からアルミ製の蓋をはがす分別作業や、オイコスのバリ取り作業など、利用者さんに合わせて環境を整えながら、作業に取り組んでいます。

Ａ班では作業だけでなく積極的に園外に出て、散歩や山歩きを楽しみながら体力作りも行なっています。

Ｂ班では作業の他にトランポリンやバランスボール、職員お手製の治具を使った課題や、園外での散歩などを行なっています。

Ｃ班での作業はミルクポーションが中心です。利用者さん個々の興味やペースに合わせて、トランポリンやバランスボール、外に出かけられない時は園内の散歩などをしています。

みんなが笑顔で健康であることが一番！早くコロナから脱出したい！　秋晴れの空の下でそんなことを思う毎日です。

生活支援員

勤続11年　関根　尚未